

# チェルノブイリの子どもたち



チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 86 2011年9月17日発行  
郵便振替口座 「チェルノブイリ子ども基金」 00160-4-98316

## 2011年夏

### 汚染地域に住む病気の子どものための特別保養

みなさまの募金のおかげで、今年も子どもたちを保養に招待することができました



ベラルーシ



ウクライナ

- ◆2012年チェルノブイリ救援カレンダー完成！
- ◆チェルノブイリ子ども基金設立20年のつどい 2011年11月20日(日)  
詳しくはチラシとニュース紙面をご覧ください

## 日本へのメッセージ ～ウクライナ・ベラルーシの子どもたちから～

日本のみなさんのご無事とご健康を願っています。私たち子どもは、この世にもう大事故・不幸が起きないことを望みます。全世界が平和に包まれることを祈っています。

(B・イリーナ 15歳 ウクライナ  
ラキトノエ地区ブダ村)



すべての日本の人々に、大事故と地震が終息することを、そしてこの試練を乗り越えていくことを願っています。(G・ナデジダ 11歳 ウクライナ ロキトニャ地区  
ブレゾヴェ村)



日本の子どもたちにもうこれ以上不幸が起きませんように。幸福と成功、健康を願っています。(S・スタニスラフ 11歳  
ウクライナ ザレチノエ地区  
ブトヴォ村)



日本のみなさんに心からお見舞いの気持ちを伝えたいと思います。どうか力を落とさないで下さい。不幸は過ぎ行き、幸福が訪れるでしょう。こんな苦しいときにチェルノブイリの子どもたちを保養に招待してくれてとても感謝しています。(D・ナタリヤ 12歳  
ウクライナ ラキトノエ地区ベロヴェシ村)



人生にはうまくいかないことや、何かを失ってしまうことが度々起こります。でもそこで立ち止まるのではなく、前を見ることが大切です。私たちは日本のみなさんに心からお見舞いを申し上げます。どうか前を向いて歩いてください。(L・カリーナ ベラルーシ  
ゴメリ市 15歳)



日本の惨事を知ったとき、私たちはみんな恐怖に包まれました。私たちの国で起きたようなことがまた起きてしまったことが、本当に残念でなりません。私たちの国では今でも事故の被害が残っています。もうこれ以上、このようなことが二度と起きないことを望みます。

(E・ナースチャ ベラルーシ  
ゴメリ市 15歳)

みなさんの幸せと健康を願っています。二度と大事故が起きませんように。(ベラルーシ ゴメリ市  
M・ヤン 12歳)

日本の子どもたちが健康で幸せでありますように。より多くの忍耐力をもってください。(E・ナースチャ ベラルーシ  
ゴメリ州ブダコシヨリョヴォ市  
14歳)



日本の子どもたちがいつも幸せで健康でありますように。もう二度と大事故が起きませんように。

(G・ヴィーカ 10歳 ベラルーシ  
ゴメリ州モーズィリ市)

日本の子どもたちが、私のように病気になりませんように。幸せと健康を祈っています。

(P・マリーナ 9歳  
ベラルーシ ゴメリ市)



# 放射線汚染地域に住む病気の子どもたちの保養 2011年6月 ベラルーシ / ウクライナ

3.11 福島原発事故により放出された放射性物質により、人々の暮らす土地が汚染され、生活や健康が脅かされています。子ども基金は、事故当初より、子どもや妊婦さんを優先して早く遠くへ避難させることを訴えてきました。しかし現在に至るまで、国による十分な措置がとられているとは言えません。

子ども基金は、チェルノブイリ汚染地域の子どもたちの転地療養を14年間支援してきました。日本でもこの夏、各地の民間団体や自治体などが、被災地の子どもたちを受け入れました。今後、日本の子どもたちの被曝を防ぐために、チェルノブイリ汚染地域の経験から学ぶべき点があるのではないのでしょうか。

2011年6月、ウクライナ、ベラルーシ、それぞれのサナトリウムに、放射線汚染地域に住む病気の子どもたちを保養に招待しました。到着後、子どもたちは医師による検査を受け、それぞれの症状に合わせた治療（運動療法、マッサージ、温水療法など）を受けました。大抵の子どもは一人でいくつもの病気があります。治療以外にも、施設内で行われたさまざまなクラブ活動や催しなどにも参加しました。どちらのサナトリウムも、放射線汚染の心配のない、自然環境に恵まれた場所に位置しています。一定期間、汚染されていない場所で安全な食べ物を食べて過ごすことは、子ども達の免疫力を高めるのに大変役立つと言われていています。また、病気のことを忘れて思いっきり遊んだり、新しいことに挑戦したりすることにより、心の中から元気を取り戻すことも、健康回復にとって重要です。



ゴメリ市、ゴメリ地区の村、モーズィリ市、レチツァ市、ジロービン市の子どもが参加しました。慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」（ゴメリ市）が窓口となり、保養の必要な病気の子ども（甲状腺ガン、膀胱ガン、皮膚ガン、骨のガン、目の腫瘍、白血病、血液の病気）が選ばれました。多くの子どもは腫瘍病の他に、呼吸器官や胃の異常・背骨の異常などがあり

ります。子どもたちは治療の他、施設内のクラブ活動（木工細工・絵画・陶芸・手芸・シンセサイザー・コンピュータ）、歌・踊り・演劇のプログラム、スポーツ大会に参加しました。周りを森に囲まれた敷地内にはいろいろな遊具類が点在し、自由に遊ぶことができます。引率の女性二人の他に、施設の教育担当者が子どもたちの生活全般の世

話をします。必要な子どもは心理療法士の治療を受けることができます。

## <参加者の感想>

◆今年もここに保養に来ることができてとてもうれしいです。友だちとサッカーをしたのが楽しかったです。食堂の食事はいつもおいしかったです。（B・リョーシャ 12歳 ゴメリ市）

◆また友だちと会えてうれしいです。このサナトリウムはすべて素晴らしいです。（R・クリスチーナ 13歳 ジロービン市）

## ベラルーシ

6月7日～6月30日／参加者：子ども34人（8歳～18歳）、引率者2人／場所：ミンスク州ブレイカ地区「児童健康回復センター“希望21”」

<参加した子どもたち>

◆なにもかも楽しかったです。クラブ活動に参加して、ビーズ飾りを作ったり、絵を描いたりしました。(S・カーチャ 8歳 ゴメリ市)

◆僕は初めて参加しました。最初の頃はうちが恋しくて帰りたいと思いましたが、だんだん友だちもできて、慣れてきました。最後には、うちに帰りたくないと思うほど、楽しくなりました。保養に招待してくれてありがとうございます。僕はまたここに来たいです。

(G・コーリャ 11歳 モーズイリ市)

◆この保養に参加してとても楽しかったです。一緒に参加した友達、引率者の方々、職員の方々にお礼が言いたいです。そして保養に招待してくれた日本のみなさん、ありがとうございます。(G・ナースチャ 10歳 レチツァ市)

#### <引率者の声>

日本で大地震・津波の被害、そして原発事故が起きたことに、心からお見舞いを申し上げます。私たちベラルーシ人は、チェルノブイリ事故のことを思い出しました。事故後すぐにヨード剤を飲み、窓をきっちり閉めて家の中にいるべきだったのです。子どもを外で遊ばせたりしてはいけなかったのです。でも私たちはそのとき何も知りませんでした。その結果、たくさんの子どもが病気になりました。

保養に参加した私の孫イリヤは、2年前に足の骨の腫瘍の手術を受けました。つい最近まで、松葉杖をついて歩いていました。退院後も自宅学習をしていたので、友だちがあまりいませんでした。滞在中、他の子のようにスポーツはできませんでしたが、工作・絵画などのクラブ活動に積極的に参加しました。イリヤにとってこ

の保養に参加して一番うれしかったのは、友だちができたことです。まだ足を引きずっていませんが、一生懸命生きようとしています。この保養のおかげで、イリヤの表情は見違えるほど明るくなりました。他の子ども達もそうです。日本のみなさんがベラルーシの子どもたちを長い間援助してくださり、また今年も子どもたちを保養に招待してくださり、深く感謝しています。

(I・ニーナ ゴメリ市)

\*\*\*\*\*

<「希望21」副所長・小児科医

I・ネステロヴィチ>

現在ベラルーシの汚染地域に住んでいる子ども(3~18歳)は16万5千人です。彼らは国の予算で年に1度サナトリウムで保養する権利があります。チェルノブイリ事故後に、汚染地の子ども用のサナトリウムが作られました。国内に9箇所あり、「希望21」はベラルーシで最初に設立されました(94年)。国が買い上げるサナトリウム保養券の値段は、実際の経費の78%です。

最近の汚染地の子どもたちには、呼吸器、骨・筋肉、内分泌、血液、消化器、泌尿器、眼球、神経などの病気が多いです。ゴメリのある村の子どもたちが持参した病院の診断書には“正常”と書かれていましたが、

こちらで検査したら46人中32人が脊椎測湾症でした。設備の整った病院のない村の子どもは、病気が発見されにくいのです。今の子どもたちの病気の主な原因は、チェルノブイリ事故による放射能の影響、感染症、環境汚染、食事など生活習慣によるものなどが挙げられます。ベラルーシでは病気の子どもの統計は公表されていませんが、「希望21」に滞在する子どもに関しては自分たちのデータがあります。そこでは明らかに、非汚染地域に比べて、汚染地域の子ど



もたちに健康の問題が多いのです。

事故当時子どもだった世代は大人になり、今は次の世代にも影響が現われています。これは今後も続くでしょう。チェルノブイリ事故の影響は、100年は続くと思います。

## ウクライナ

6月1日～6月14日／参加者：子ども22人（10歳～14歳）、引率者4人  
／場所：エヴパトリア市 「国立子どもサナトリウム」

### <参加した子どもたち>

ジトミル州ナロジチ地区・オブルチ地区、ロヴノ州ザレチノエ地区・ベロヴェジ地区の村に住む子どもたちが参加しました。慈善団体「チェルノブイリ子どもたちの生存」（キエフ市）が窓口となり、保養の必要な病気の子どもたち（脊椎側湾症など骨の異常、甲状腺の異常、胆管機能障害、呼吸器官の病気など）が選ばれました。子どもたちは治療の他、施設職員によるスポーツ大会、コンクールなどに参加しました。夕方は、野外ディスコや映画上映会なども行われました。このサナトリウムには、ウクライナだけでなく、ロシアや旧ソ連の国々からも、子どものグループや家族連が治療に訪れています。

### <参加者の感想>

◆サナトリウムには広くてきれいな庭園があり、空気がとてもよいです。食堂の食べ物はおいしくて、職員の人たちは私たちのためにとても努力してくれています。海、太陽！この施設は健康回復に最高の場所です。日本の皆さんが苦しいときに、チェルノブイリの子どもたちを保養に招待してくれてとても感謝しています。（M・ナージャ 13歳 ロヴノ地区

ドゥボロニツァ市）

◆サナトリウムの庭の美しい木々や花々は、目と心を楽しませてくれます。いろいろなことを目にして、毎日が明るくて新鮮な印象でいっば

いです。治療と食事も素晴らしいです。（D・ナターシャ 12歳 ロキトノエ地区ベロヴェジ村）

◆食事、治療、きれいな空気、海、このサナトリウムのすべてがよかったです。（S・スタス 11歳 ザレチノエ地区ブトヴォ村）

◆このサナトリウムが大好きになりました。私たちの他にも、各地からたくさんの子どもたちが治療のために来ています。中には歩けない子や、言葉の話せない子もいます。（K・オクサーナ 12歳 ザレチノエ地区ザドヴジャ村）

### <引率者の声>

日本の皆さんがとても大変なときに、ウクライナの子どもたちを気遣ってくださり、心から感謝しています。保養に招待された子どもたちは全員が汚染地域に住んでいて、いろいろな健康上の問題を抱えています。このような環境で過ごすことは彼らの健康に大変重要なことです。適切な治療、栄養のあるおいしい食事、そして何より、海が子どもたちを元気にしてくれました。素晴らしい保養の機会を与えてくださり、本当にありがとうございます。残念ながら私たち

の国は子どもたちにこのような援助をしてくれません。

（M・アンドレイ ロキトニャ市第1学校 教師）



報告：佐々木真理



## 2011年6月 家族訪問・ベラルーシ（その1）

チェルノブイリ事故から25年経た今も、病気に苦しむ子どもたちがいます。子どもの頃、甲状腺手術を受けた世代は大人になりました。体調が優れず思うように仕事に就けない若者、汚染地域から引っ越すことができず住み続けている家族もいます。

\* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \* ~ \*

### “病気はチェルノブイリのせいだと思います”

M・リーザ（2005年生まれ）ゴメリ市

後縦隔（胸）神経芽細胞腫。2009年9月に肺炎にかかり、1ヶ月間小児病院に入院。同年10月、救急車でミンスク市の小児ガンセンターに移送。化学療法10ブロックを受けた。幼稚園には通っていない。免疫力が低く感染症にかかる恐れがあり、他の子どもとの接触を禁止されている。服用している医薬品は障がい児特典扱いのため、無料で処方されている。

化学療法を受けた後、食欲がなくなり体重が激減、吐き気も訴えていた。最近食欲も少しずつ戻り、体重も増えてきている。化学療法の副作用が皮膚に現われた。また、後遺症として、左の脇が完全に閉じなくなってしまった。強い太陽光線を浴びることを禁止されているため、昼間は家の中で過ごしている。治療中、敗血症にかかり、一時は危険な状態だった。

リーザは大の読書好きで、図書館でよく本を借りてくる。絵を描くのも好きで、これまでに描いたたくさんの絵を見せてくれた。

両親は共働きで、昼間は祖母がリーザの面倒をみている。アパートの居間と台所にはほんの僅かな家具しかなく殺風景であるのに対し、

リーザの部屋にはぬいぐるみや人形がたくさん飾られていた。訪問したとき、父親は夜勤の仕事から戻ってきたところだった。

母親タチヤナ「リーザの病気はチェルノブイリのせいだと思います。でもチェルノブイリ事故による被害者として国から認められていません。事故後多くの子どもが病気になり、

みんなとても恐れていました。でも今もそれは続いています。もしかしたら、今の方がもっと恐ろしいかもしれません。私たちの祖父母の時代は、80歳・90歳になってもみんな健康でした。今は30歳・40歳くらいの人たちが、まるで老人のようです。

リーザが入院した小児癌センターは、看病をする母親も宿泊できるようになっています。子どものためのレクリエーション・

ルームもあるし、母親たちが食事を作ることができるように台所もあり、洗濯機も使えます。心理療法士が毎日子どもたちのところに来てくれて、絵本をもってきてくれたりしました。

自分も夫も健康に問題がないのに、長い間子どもができませんでした。待ち望んでいた子どもでしたので、本当にうれしかった。だから病気のことを知ったときはショックが大きかった。でも、つねに“これからはよくなる”と思って生きていかないと。口に出した



言葉は自分にかえってくると思っています。リーザが病気になってから、私たち夫婦はよく教会に通うようになりました。以前よりも、祈ることの大切さを感じています。

いまのアパートには 2010 年 10 月から住んでいます。リーザの障がい児補償として優先的に入居することができました。月 71 ドルを 20 年ローンで返済します。まずは子ども部屋を居心地がよいように整えました。居間と台所は、ご覧の通り最低限のものしかありません。これから少しずつ揃えるつもりです。



日本の大地震・津波、原発事故のことを知ったとき、あまりの恐ろしさに泣いてしまいました。自分たちに何かできることがあればしたいと思いました。被害を受けた方々には心からお見舞いを申し上げます」

**“ 本当は村ごとみんな移住しなければならなかった ”**

S・マクシム (1986 年生まれ)

ゴメリ州ヴェトカ地区スヴィスラチ村

2000 年に甲状腺ガンの手術を受けた。甲状腺ホルモン剤、カルシウム剤を服用。半年に 1 度ゴメリ市の病院で検査を受けている。今のところ検査費用は無料だが、薬は時々自費で

購入している。

マクシムは農業大学を卒業後、地元の農場で働いていた。しかし労働条件の悪さから体調がついていけなくなり、仕事を辞めなくてはならなかった。現在は、母親と共に家の畑仕事や家畜の世話をしながら生活している。マクシムの住んでいるスヴィスラチ村が、高濃度に汚染されていることがわかったのは、チェルノブイリ事故から 3 年後のことだった ( )。周辺の村では移住が始まり、スヴィスラチ村も移住が予定されていた。しかし、25 年経った今もそのまま放置されている。マクシムの母も、現地慈善団体の代表も、「移住させるための予算が尽きてしまったから」と話した。村に行く途中の森には“放射能危険・立ち入り禁止”の立て札がいくつも並ぶ。マクシムの家のほんの目と鼻の先にも、この立て札が建っている。

「放射能マークの立て札に関係なく、牛はこのへんを自由に歩き回り、汚染された草を食べています。自分のうちでは牛を飼っていませんし、この村の牛の牛乳を飲むつもりもありません。僕にはいまガールフレンドがいますが、まだ結婚は考えていません。結婚したとしても、子どもをつくることには不安を感じています」とマクシムは話した。

マクシムの母親「ここが高濃度に汚染されているということは、よくわかっています。でもどこに引っ越せばよいのでしょうか。どこで野菜を作り、どこで家畜を飼えばよいのでしょうか。汚染された森にきのこも取りに行きます。子どもにはなるべくたくさん食べさせないようにしていますが。うちの畑でとれた野菜、うちで育てた鶏肉、豚肉、卵を食

べます。生きていくためには、食べないわけにはいきません。汚染された森から木を切ってきて、冬は暖房用に使います。私はこれからもずっとここに住み続けますが、子どもたちには別の場所で暮らしてほしいと思っています。でも今はその可能性がありません。

チェルノブイリ事故の事を知ったのは5月1日でした。でも聞かされたところで、放射能のことはよくわかりませんでした。村の畑の表面が削り取られ、別のところから土が運ばれてきました。うちの庭や畑の土も入れ替えて、屋根も洗浄しました。雨どいのところは一番放射能が高いと言われていました。

89年あたりから村の子どもたちが病気になり始めました。鼻血を出す子どもが増えました。モスクワやミンスクから学者がやって来て検査をしたりしました。この村は本当なら全住民が引っ越さなければならぬくらい汚染のひどい地域です。でも、「引っ越せる人は自分で引っ越してください」ということだったのです。事故前はこの地区の中でも大きな村でした。事故後、多くの人引っ越して行き病院も工場もなくなりました。私たちは頼れる親戚もいないし、お金もありませんから、ずっとこの村に住むしかなかったのです。マクシムは甲状腺ガン、娘（89年生まれ）は知的障がい者です。自分が死んだら一体どうやって生きていくのかと思うと不安です（涙をためていた）。次男（マクシムの弟・98年生まれ）



も甲状腺に問題があり、薬を飲んでいます。この村の子どもたちは常に病院での検査が必要です。自分たちはずっとこの場所に住んでいるからわかりませんが、健康な人はここに来ると、何か体に異変を感じるようです。

まさか日本であるような原発事故が起こるとは思いませんでした。ほんとうにお気の毒です。私たちはまるで自分の事のように感じています。でも日本人は賢いですし、高い技術力をもっていますので、私たちの国ほど酷いことにならないのではないかと思います。大変な状況なのに、パニックにならず、落ち着いて、みんなが助け合っている姿は素晴らしいと思いました。

私たちはこれまでいろいろな人たちから助けられました。ゴメリの慈善団体と、日本の子ども基金にとっても感謝しています。そして日本の里親の方からの支援にとっても助けられています。どんなに感謝してもしきれません。

（写真下はマクシムの家の近くに建っている放射能マークの立て札。これより先への立ち入りが禁止されている。）



ベラルーシ国内の放射線汚染の状況が明らかにされたのは、チェルノブイリ事故から3年後だった。原発の近くから避難した人たちの移住先の土地が、実は元住んでいた場所より汚染のひどいところだったというケースもあった。

（報告：佐々木真理）



# チェルノブイリと福島

～「チェルノブイリ子ども基金」設立 20 年～

チェルノブイリ事故から 25 年の今年、チェルノブイリ子ども基金は設立 20 年を迎えました  
4月に行った事故 25 周年・救援イベントのさいは 3・11 福島原発震災発生直後であり  
20 年間の活動の歩みに思いを馳せるゆとりがありませんでした  
放射能と共に生きていかななくてはならなくなりました  
チェルノブイリと福島の問題について講演会を行います

日時 2011年11月20日(日) 14:00～17:00 (13:30開場)  
場所 明治大学リパティホール 1001教室 (JR・東京メトロ御茶ノ水駅より徒歩5分)

広河隆一 ～チェルノブイリと福島の人々～

「チェルノブイリ子ども基金」設立者・顧問、フォトジャーナリスト、『DAYS JAPAN』編集長

黒部信一 ～放射能から子どもたちを守るために～

「チェルノブイリ子ども基金」顧問、小児科医、「未来の福島こども基金」代表

佐々木真理 ～チェルノブイリ汚染地域に暮らす子どもたち・転地療養と家族訪問の報告～

「チェルノブイリ子ども基金」事務局長

資料代 500円

主催 チェルノブイリ子ども基金 / 現代史研究会

問合せ先 チェルノブイリ子ども基金 事務局

TEL/FAX : 03 - 5228 - 2680

E-mail : cherno1986@tokyo.email.ne.jp

完成しました！

## チェルノブイリ 26 周年救援カレンダー

～ 子どもたちからのメッセージ ～ 子どもたちの写真と絵でつづる 12 か月



2012 年カレンダーは、広河隆一撮影の写真と、チェルノブイリ被災地の子どもたちが描いた絵により構成されています。

ウクライナとベラルーシの子どもたちから、日本の被災した子どもたちへのメッセージと、子どもの頃に甲状腺手術を受けたウクライナ人女性からのメッセージ入りです (カレンダーにはキャプションが入っていません)。

子どもたちの笑顔を中心に写真を選びました。

ご自宅用に、職場用に、またプレゼント用に最適です。

どうぞ、まわりの方々にも広めてください。

タイプ：上下見開き

サイズ：見開き時 (A3) 縦 42cm × 横 30cm / カラー

定価：1000 円 (送料別)

デザイン：スタジオ・ギブ

カレンダーの収益は、チェルノブイリと福島の被災者のための救援金にあてられます

# 黒部ドクターのお話



## 福島のごども健康相談会(\*)に参加して

第1回(6月)の時は、医師ほか11人が対応。避難しようかどうかという相談が多く、対応した側は避難を勧めていました。その後、東京に福島の親子を招待して、臨時の相談会がありました。第2回(7月)の時は、医師5人が対応。避難したいができない、どうしたらよいかという相談内容がほとんどでした。放射能のことを言うと地域でバッシングされ村八分になる。差別を受け、「給食は大丈夫でしょうか」というだけで白い目で見られ、「それなら出て行きなさい」と言われる、などの悩み事相談でした。地域ではマスクもできない、誰に言うこともできない実情であることの訴え、聞いてもらいたいという相談でした。実際「校庭で遊ぶな」とか「放射線の話」を授業でした教師が辞めて行ったとか、学校、幼稚園全体がそういう雰囲気であるらしい。

一部の医師や生協が協力的だが、必ず「他へ言わないでくれ」と念をおされ、医師会や行政のしめつけも厳しい。大体、協力的な医師は避難してしまいました。

私の親友の木村眼科はしめつけに合いながら、NPO「ゆかり」を立ち上げ、全国から、眼科医のみならず、医師、市民の支援を受けて活動しています。行政は非協力的ですが、老眼鏡、老眼鏡入れ、コンタクトレンズ(特に使い捨て)などは、救援側の消防士にも喜ばれたそうです。メガネなどしていたら、仕事にならず、コンタクトが必要なのに手に入らない状況でした。全国盲導犬協会の支援もあり、全国からさまざまな支援物資をもらい、診療所にボランティアが来て仕分けし、配っています。生活困難な一人暮らしの視覚障害者を、所沢の国立リハビリセンターの眼科が協力して受け入れてくれるため、その移送や、救援所の炊き出し、お風呂(有床診療所のため)を利用させたりといろいろ行っています。相変わらず福島県のアドバイザーたち、特に県立医大副学長になった山下教授は「100ミリシーベルトでも安全」と平気で言い、「孫を連れてこい、そうしたら信じ

てやる」と言われても、その気配もなく、安全と言い続けています。それで県が動かず、平成の合併もしないで独自にやってきた飯館村は孤立しています。ぼつぼつ、上に頼ったらだめだと思ふ町村長も出始めたようですが、まだ少数派です。多くは県、すなわち国の言いなりです。だから、困難な家庭が相談先もなく、さまよっています。汚染がひどく、本来避難地区になるべき福島市すら、ほったらかしで(とくに中心部の県庁通りの汚染がひどい)、一部の人は避難しましたが、そこへ入ってくる人もいて家賃は逆にあがっています。

そんな状況にあって、広河、黒部、向井らと子ども基金有志が立ち上げた「未来の福島ごども基金」が募金を集め、とりあえず飲食物による内部被曝を避けようと、福島「市民放射能測定所」が7月に立ち上がり、カンパで測定しています。東京の市民組織でも5~7千円の測定料を取っていて、それでも赤字ですが、福島では料金も取り難く、運営に頭を悩ませています。

3月12日と15日の爆発は大量の放射能を流したのに、パニックになるからと隠され、後で公表されました。子どもの尿からセシウムが出て、いくつかの週刊誌では、安全と宣伝しています。一方で、原発反対の立場の週刊誌もあります。

黒部信一：埼玉県新座市堀之内病院 小児科医師

黒部信一のブログ <http://kurabe-shin.no-blog.jp/>

【講演会などの日程】

9/19(月・祭) 10:00~12:00 宇都宮市 とちぎの森 講堂

(問) 真岡西部クリニック Fax 0285-84-6060

9/23(金・祭) 10~16:00 ごども健康相談(\*) 福島市市民活動サポートセンター 主催:ごども福島情報センター090-6068-7017 「子どもたちを放射能から守る医者会の」の医師たちが相談を受けます。

9/25(日) 13:30~16:00 新座市東北コミュニティセンター「どう考える? 埼玉での子育て」(問) 048-482-8656

10/10(月・祭) 13:30~ 浜松市クラウンパレスホテル4F

ゲスト吉岡斉(講演) ナターシャ・グジー (バンドウラ&歌)

主催:はままつ政経・文化フォーラム 053-452-7281

10/16(日) 14:00~16:00 本庄市役所 主催:こたま青年会議所

10/30(日) 13:00~15:00 栃木県さくら市氏家保健センター

主催:学校給食と食育を考える会「ゆめ! さくら博」の一環

## 東日本大震災支援募金 報告

前号ニュースレターNo.85でお知らせしましたように、東日本大震災募金と、25周年イベント収益の合計115万9542円より、三団体へそれぞれ38万6514円を寄付いたしました。

### チェルノブイリ子ども基金奥羽

3・11から半年を経過しました。被災した岩手の沿岸各地では、今も、がれきの片付け作業が続いていますが、最後の避難所もようやく閉じられ、困難な中にも、次の生活への歩みが始められようとしています。

福島原発事故の放射能の影響は、数百キロも離れたこの地でも、牧草から、一時基準値を超えるセシウムが検出されました。奥羽の地は、六ヶ所村の核燃料サイクル施設を抱え、改めて、福島原発事故の深刻な事態と向き合っていかなければならないと思っています。

チェルノブイリ25周年イベント収益から、東日本大震災募金として、たくさんのご寄付をいただき深く感謝申し上げます。この支援金は、被災者や子ども達への支援を行っている「日本基督教団奥羽教区」（盛岡市）（28万6514円）と「森風子ども災害援助基金（NPO法人岩手子ども環境研究所）」（岩手葛巻町）（10万円）の2つの団体に寄付させていただきました。ありがとうございました。

（久保証紀）

写真は日本基督教団奥羽教区での贈呈の様子。



### チェルノブイリ子ども基金あいづ

震災のあと、私が働く町にも避難所が作られました。ヒョんなことからその避難所の現場責任者に指名され、以後避難所勤務となって避難された方のお世話をして来ました。自衛隊の用意したトラックに訳も分からず乗せられた人、避難所を転々として私の町にたどりついた人など、それぞれに大変な状況をくぐりぬけて来た方々です。町の避難所が閉鎖されたあとも、希望する方には町営住宅への入居のお世話をするなどしてきました。

そうして多くの方と接するなか、先日は南相馬市の仮設住宅に入居が決まった方の見送りをしたばかりです。

さて会津は、福島県においても地震の被害が最も少なく、また福島原発からも離れているところです。決して放射能の影響が無いわけではありませんが、今回の義捐金については被害の大きいところで活動されている団体に使ってもらうことにしました。地元で長く反原発の活動をしてきた「脱原発福島ネットワーク」と、「子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク」に、皆さんからいただいた善意を託しました。（五十嵐和典）

### 未来の福島子ども基金

6月に急きょ立ち上げた「未来の福島子ども基金」ですが、おかげさまで全国のみなさまから多くの寄付金が届いています。この中にはチェルノブイリ子ども基金からの寄付金も含まれています。福島にオープンした市民放射能測定所（14頁参照）に対して「DAYS放射能測定器支援募金」と共同で5台の食品測定器を支援しました。また、大口募金者の希望により、椅子式のホールボディカウンター1台も寄贈しました。8月末までに合計751万円（半額分に相当）の代金を振り込みました。ありがとうございました。

食品の測定器については早い段階で注文したのですが需要と供給が追いつかず、ようやく9月初めに測定器3台とホールボディカウンターが納品されました。これらの機器はベラルーシ製（ATOMTEX社）です。福島市、郡山市、田村市に設置されました。納品がもう少し後になるドイツ製の測定器（BERTHOLD TECHNOLOGIES社）はいわき市などに設置予定です。いずれも機器の校正を経て本格稼働に入ります。見守ってください。（向井雪子）

「未来の福島子ども基金」の活動報告はサイトに随時掲載 <http://fukushimachi1drensfund.org/>



# 里親のページ

## 里子からの手紙

先日、支援金を受け取りました。本当にありがとうございます。病院での検査で、甲状腺にのう胞が見つかりました。血液検査を受け治療が決められました。食道にもポリープが見つかり、生体組織検査をしました。結果がでるのは10日後です。もしかしたら手術が必要になるかもしれません。9/1から新学期が始まります。明日は学校で集まりがあります。また、僕のように他の町から来ている生徒たちが寮の部屋に入ることになっています。こんな大事な時期にもし手術などということになってしまったらと思うと、とても不安です。祖母の体調がとても悪くなってしまったため、母は僕の入学式に来ることができなくなりました。もうすぐ僕の誕生日ですが、こんな心配なことばかり重なってしまいました。(ベラルーシ ゴメリ市 N・イワン)

## 里子の家族からの手紙

日本で起きた不幸な出来事を、あなたとともに悲しんでいます。神様があなたをお守りくださることを、そして健康でありますことを願ってやみません。あなたの国は優しくたくましい、勤勉な国なので、どうか忍耐強く乗り切ってください。あなたのことをとても心配しています。お手紙を下さい。(ベラルーシ エリスク市 S家)

## 奨学生からの手紙

奨学金をいただきましたことを深く感謝申し上げます。おかげさまで、私はゴメリ国立技術大学の金融マネージメント専攻科を卒業し、今は工場の会計係として働いています。ご支

援くださり本当にありがとうございました。

(ベラルーシ チェチェルスク市 G・タチャナ)

\*\*\*\*\*

ベラルーシの慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」会員の内訳(2011年8月末時点)

病名	人数	年齢
甲状腺ガン	21	8~17歳
脳腫瘍	36	7~17歳
目の腫瘍	21	7~17歳
肝臓ガン	19	6~17歳
腎臓ガン	21	3~17歳
白血病、その他の血液病	52	9~17歳
小骨盤のガン	18	10~17歳
鼻咽喉のガン	9	7~17歳
皮膚ガン	4	3, 10, 14歳
右副腎腺腫	2	10, 13歳
ターナー症候群(染色体異常)	2	8, 16歳
腎炎	1	16歳
脈管発達異常	1	16歳
首の空洞性血管腫	3	2, 4, 17歳
先天性腎臓異常	4	7~17歳
隔離性成長欠損	1	17歳
神経芽細胞腫	2	5歳
結節性甲状腺腫	4	10~15歳

「子どもたちは全体として免疫力が大変低いことです。健康上の問題をいくつも抱えていることも多いです。汚染された土地でとれた食べ物を日々食べ続けていることが原因だと思います。病気に加えて、両親の離婚や貧困などから辛い思いをしている子どももいます」

代表 ポホモワ・V

# ミンスク便り



はじめにクイズを一つ。ベラルーシが世界で一番高く、日本が一番低いものは？

答えは、中央銀行の定める公定歩合（日本では現在、「基準割引率および基準貸付利率」）です。現在ベラルーシは、体制を揺るがすほどの経済危機に見舞われています。日本の超低金利についてはご存知の通りですが、ベラルーシでは危機の発生した春以降、2009年以降徐々に下がり続けていた公定歩合が上昇に転じ、8回目の利上げで9月1日には27%となり、それまでトップだったシエラレオネ（23%）を抜いて、遂に世界一になったのです。

今回の経済危機はしばしば「外貨危機」とも呼ばれ、大多数のベラルーシ市民が心配しているのは、外貨不足と通貨の下落、物価の上昇です。今年2月の末、輸入関税の大幅引き上げが明らかになり、その前に中古車を購入しようと外貨が大量に買われたことから、今回の危機は表面化しました。外貨が出回らなくなり、両替所の周りではリストを作って何日も外貨を順番待ちしたり、それを代行するビジネスまで出現しました。日本なら外国旅行にでも行かなければ、現金のドルを手にするのは普通ありませんが、ベラルーシではベラルーシ・ルーブルへの不信感が根強く、米ドルやユーロなどの外貨は闇の支払いや貯蓄の手段として、ごく一般的で、常に需要があります。外貨が不足したため、ベラルーシ・ルーブルの価値は下がりました。これまでなら中央銀行が外貨を売ってルーブルを支え、公定レートを定めていたところ、その資金も尽きてしまったのです。昨年12月の大統領選挙前に実施された公務員給与や年金の大幅引き上げなどは、国家財政を大きく圧迫し、石油など、ベラルーシが輸入に頼る燃料価格の上昇も重なりました。「無い袖」は振れず、ベラルーシ政府は数回にわたってルーブルの切り下げを余儀なくされました。公定レートは今年の初めに1ドル=3,000ルーブル台だったところ、9月初めの時点で5,000ルーブル台まで下がっています。

闇のレートでは8,000ルーブルとも10,000ルーブルとも言われています。

ルーブルの価値が下がったため、輸入品をはじめとする物価が急騰し、市民の生活を直撃しました。パンや乳製品など、一部の品目については規制がありますが、その他の食料品や生活用品は見る度に値段が上がっています。さらに、ルーブル安で価格が下がったため、隣のロシアに大量のベラルーシ製品が運び出されており、先行きの不安からくる買占めもしばしばあって一層物価が上がり、品不足も生じています。ルーブル建ての給料はこれまでのようには引き上げられないので、当然ながら生活は苦しくなり、状況を改善できない当局に抗議する動きも始めています。

冒頭で述べた公定歩合の引き上げは、インフレを抑え、為替相場を安定させることが最大の狙いで、銀行の定期預金金利はルーブル建ての場合、年率40%に達するものまで出ています。

外貨危機の発生から半年、政府はベラルーシ・ルーブルの相場を完全に市場に任せることを発表しました。これで数か月のうちには為替相場が一本化し、外貨事情は元に戻ると期待されています。一方で、さらにルーブルが下落し、物価が上昇することは避けられないとみられ、社会不安を抑えるために、給与や年金、学生の奨学金引き上げや一時手当て支給などの策も打ち出されています。

この夏は外国への休暇旅行を控え、家庭菜園で生活防衛のための野菜づくりにいそしんだ人も多かったようです。畑から町に人々が戻り、買い物に出かけて現実に向き合う秋、これ以上事態を收拾できなければ、中東諸国のような革命にまでは至らないまでも、やらないと再三繰り返していたルーブル切り下げを断行した現政権が、失われた信頼を取り戻すのはかなり難しくなるでしょう。

花田朋子：ミンスク在住



## 福島・市民放射能測定所 C R M S <http://www.crms-jpn.com/>

東京電力福島第一原発事故から4か月目の7月に市民放射能測定所は立ち上がりました。

「未来の福島子ども基金」と「DAYS放射能測定器支援募金」からいち早く食品測定器をご寄贈いただき、福島市において食品計測の活動を始めることが出来ました。

それまでは誰も食品の放射能汚染度を測った経験など全くありませんでした。簡易測定器での計測には、食品を持ち込んだ人に必ず立ち会っていただきました。計測時間は20分です。その間に「食べ物が放射能で汚染されるということはどういうことなのか?」「食の安全基準というものはどういうものなのか?」など話します。一緒になって考える、いろいろと話すということが「市民による測定」の重要な部分なのではないかと思っています。「怖い、怖い」と漠然とした不安を抱くのではなく、自分で自分の畑で採れたものや食べるものを測ることで、放射能汚染について考え、そして我が身を守る意識が芽生えてゆきます。市民による測定とい

うものはSelf Defense 自衛の第一歩だと思うのです。

食品測定器は、放射能汚染からどうやって子ども達を守っていくのか...と手探りしていた暗闇にともされた灯かりです。その灯かりを最初に届けてくださった広河隆一さんははじめご支援下さっている皆さまに心から御礼申し上げます。さらに詳しい核種が測れる上位機種の食品測定器とホールボディカウンターをご寄贈頂きました。一人でも多くの子ども達を守るために、未来を守るために、これらの測定器は皆さんからお預かりしたものです。その責任を感じながら福島での測定活動に励んで参ります。

(市民放射能測定所 理事長 丸森あや)



(編集部注) この原稿をいただいた数日後「食品測定器は、とても良い状態です!ありがとうございます。測定がどんどん始まっています。」といううれしい連絡が届きました。どうぞ、測定所のサイトで測定結果などをご覧ください。

## 最新チェルノブイリニュース

2011/9/5 ウクライナ国営テレビ<ウクライナは今後も日本を支援>ヤヌコヴィチ大統領は、ウクライナ訪問中の日本の衆議院の横路孝弘議長と会談し、今後もウクライナは日本の震災復興のための支援を行っていく考えを示した。

2011/9/5 ベラルーシ国営テレビ<国際原子力機関の代表団、ベラルーシ・日本間協力プロジェクト Radbel の結果を評価>核・放射性物質の不法取引対策の面で、ベラルーシ・日本間の協力関係が大きく広がった。この2国間プロジェクトは、1年余り前にスタートしたものだ。このプロジェクトの中で、日本側はベラルーシの国境に置かれた放射線監視システムを更新するため100万ドルを支出している。この資金を元にベラルーシの国境警備当局は、ベラルーシ製の最新の放射線測定装置を購入した。皮肉なことに、このプロジェクトはベラルーシへの支援活動として始まったが、そのとき日本の福島でチェルノブイリと同様の不幸

が起こるとは誰も予想していなかった。現在では、日本の専門家たちがベラルーシ側に経験や知識、装置などの面で支援を求めている。

2011/9/6 TV Inter "Podrobnosti" [ウクライナ]<チェルノブイリ被災者による抗議活動行われる>ウクライナ東部の中心都市ハリコフでは、チェルノブイリ被災者50名が州政府庁舎前で集会を行った。この抗議活動の参加者たちは、彼らに支給されている年金が大幅に削減されるなど、チェルノブイリ被災者への優遇措置の可否を政府内閣が決めるとする、新たな法案に反対している。

2011/9/10 TV Inter "Podrobnosti" [ウクライナ]<ベネチア映画祭でチェルノブイリの映画を上映>チェルノブイリをテーマにしたウクライナ・フランス合作映画「忘却の大地」が上映されている。(翻訳 平野)

紙面の都合上抜粋です。子ども基金のブログまたはサイトに全文紹介します。

募金状況 2011年6月～8月 (単位:円)

	6月	7月	8月
募金件数	187件	217件	119件
救援寄付金	*2,158,750	520,395	457,253
保養費	181,000	57,888	38,800
特別保養費	175,000	35,000	70,000
里子支援	32,730	1,343,790	431,580
特別保養賛同金	3,000	-	5,000
4月イベント賛同金	351,000	-	2,000
医療機器支援	103,000	105,000	49,000
ニュース購読費**	40,000	56,000	22,000
東日本大震災支援	1,800	-	-
<b>合計(円)</b>	<b>3,046,280</b>	<b>2,118,703</b>	<b>1,075,633</b>

\*(株)カタログハウスより運営費としての募金150万円を含む

\*\*通信費→ニュース購読費へ表記を変更しました。

◇他に現物寄付(図書カード)5,000円

救援状況 2011年6月～8月 (単位:円)

<ウクライナ>

子どもたちの生存

里子支援 9人(11.7～12月分)	215,109
緊急支援 2人	47,802
運営費(12.1～12月分スタッフ給料、通信費、家賃)	421,600

<ベラルーシ>

希望 21

保養費(2011年後期分)	1,788,236
特別保養費(子どもの保養後半分)	427,460

困難の中の子どもたちへ希望を

里子支援 63人(11.7～12月分)	1,512,945
緊急支援 6人	144,090
特別保養費(子どもの保養バス代)	54,366
運営費(12.1～12月通信費・家賃、スタッフ給料 11.7～12月・12.1～6月分、車修理費)	740,588

チェルノブイリのサイン

里子支援 7人(11.7～12月分、1～6月不足分)	200,538
医薬品	2,732
運営費(通信費)	4,979

※一部、5月までの支援(前号ニュース未掲載)分を含みます。

\*\*\*\*\*

チェルノブイリの歌声 ~みなさんからのお便り~

\*ベラルーシやウクライナからの福島、日本への支援の言葉には心が温められるのを感じます。(愛知県 Sさん)

\*『チェルノブイリ・ハート』見ました。カンパいたします。(東京都 Iさん)

\*同封していただいた(里子の)写真を見ました。大きくなり、元気そうで嬉しく思います。(東京都 Kさん)

♡ 募金団体名一覧 ♡

紙面の都合上、個人名は省略させていただいております。ご寄付をいただいたみなさまに心より感謝申し上げます。(順不同・敬称略)

【6月】(有)エニタイム/リサイクルグループ カリーナ/(株)ジョイメイト/(株)カタログハウス/日本キリスト教団 広島船越教会婦人部/日本山 妙法寺/常行寺/トランスフェリックマネジメント/チェルノブイリ25周年救援企画 in 名古屋実行委員会

【7月】トランスフェリックマネジメント/(株)ジョイメイト/うえのはらリサイクルの会/三重・チェルノブイリ被曝児童救援募金チェルノブイリ子ども基金奥羽/葛飾母親連絡会/イエス・キリスト教会 祈りの家/広河隆一非核・平和写真展開催を支援する会/(株)リンク

【8月】トランスフェリックマネジメント/自治労日野市職員組合/きっぱりプロジェクト品川平和のための戦争展/まちかど美術館(株)ジョイメイト/(株)音楽センター

\*\*\*\*\*

医療機器募金 513,000円(9/2現在)

ゆうちょ銀行以外の金融機関からお振込みされる方へ

店名:〇一九店(ゼロイチキュー店)

預金種目:当座

口座番号:0098316

受取人名:チェルノブイリコドモキキン

ゆうちょ銀行以外の金融機関からお振込いただいた場合、こちらに届く明細票にはご連絡先が記載されません。領収証をご希望の場合や、ニュースレターの送り先ご住所が変更になった方は、お手数ですが事務局までお知らせいただきますようお願いいたします。

電話/FAX 03-5228-2680

E-メール cherno1986@tokyo.email.ne.jp

\*\*\*\*\*

\* (略)25年前から今までに、すぐに行動できなかった情けない私なのですが3月11日大震災、原発事故後、世界の皆様が心をこめてすぐ助けてくださって心から感謝です。基金の皆様のご活動にも感謝です。親子で仙台にて被災いたしましたがおかげさまで元気しております。一日一日自分にできることを子どもたちとつづつにつなげたいです。(神奈川県 Oさん)

# 事務局から

## ボランティア募集

事務局では、毎月第1・3土曜日の午後1時半～5時半、ボランティアの方に事務作業などを手伝っていただいています。

ニュース発送作業(年4回:3・6・9・12月)  
次回 日時:12/17(土)午後1時～4時頃まで  
場所:東京ボランティア市民活動センター  
(飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10階)  
少しの時間でも歓迎です。

日程が変更になる場合もありますので、ボランティア参加希望の方は、前日までにご連絡ください。  
[問い] 平日午前10時～午後5時半 留守の場合は伝言をお願いします。T&F 03-5228-2680

## 新刊のご案内

### 『福島 原発と人びと』

広河隆一著 岩波新書 798円

福島の人々の声を、数多くの写真とともに報告しています。また、品切れ状態が続いていた『チェルノブイリ報告』、『チェルノブイリから広島へ』も手に入るようになりました。

### 『原発・放射能 子どもが危ない』

小出裕章・黒部信一 共著 文春文庫 798円

原子力の専門家である小出さんとチェルノブイリを支援する小児科医である黒部さんとの共著。

## イベント情報

### 【トーク&ライブ】これから起こる本当のこと。

2011年9月21日 19:00～21:30 文京シビック小ホール  
出演 広河隆一 おしどりマコ&ケン ナターシャ・グジー  
主催:東京放射能測定センター 設立準備委員会  
後援:DAYS JAPAN チェルノブイリ子ども基金  
入場料:1,500円(収益は東京放射能測定センターの  
設立資金に充てられます)  
予約:予約フォームよりお申し込みください  
<http://bit.ly/o3wMmG>

## 脱原発 1000万人署名に賛同しています

全国各地で脱原発に向けていろいろな取り組みが行われています。子ども基金でも、大江健三郎さんらが呼びかけた1000万人署名に賛同し、このニュースに署名用紙を同封させていただきました。すでに署名済みの場合はまわりの方に広めていただけたら幸いです。よろしく願いいたします。

## すべての方に振込用紙を同封しております

事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便払込用紙をお送りしております。すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

### 払込取扱票のお名前・ご住所は

### 楷書でわかりやすくご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読しづらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

### 「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で、受領確認の連絡をご希望の方には、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

### 「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収書をご入り用の際はお申し出ください。

ご不明な点がございましたら問い合わせください。

福島原発震災が起きて以来、放射能に関して毎日さまざまなニュースが飛び込んできます。今も汚染地にいなければならない福島の人たち。毎回好評の「黒部ドクターの話」、今回は福島での子ども健康相談についての話です。

先日、日本キリスト教会館(東京都新宿区)において、ピキニ環礁で被爆した第五福竜丸と福島原発震災についての写真・パネル展、山田真さんの講演会がありました。子ども基金からも数人で参加しました。山田さんは「子どもたちを放射能から守る全国小児科医ネットワーク」の代表です。黒部さんも書いている福島の健康相談会(10頁)のことを話されました。「6月に検診した時、お母さん方の不安をたくさん聞くことが主なことだった。3/14まで、現場にいた方には全く情報がなかった。電気もTVもない中で、危険だという情報も誰も教えてくれなかった。相馬から来たあるお母さんは、危険な中で子どもをおんぶして外にいたことを後悔している、と話した。福島出身ということで子どもが一生差別されながら生きていくのではないかと話す母親もいた。」

実際に、他の地域に避難した人々への差別の問題も明らかになっています。私たちは何ができるか.....(む)



チェルノブイリ子ども基金 NEWS 年4回発行

〒162-0816 東京都新宿区白銀町25 メゾンド原207号室 Tel/Fax 03-5228-2680

ウェブサイト = <http://www.smn.co.jp/chno/index.html> e-mail: [chno1986@tokyo.email.ne.jp](mailto:chno1986@tokyo.email.ne.jp)

事務局ブログ 神楽坂事務局だより <http://blog.goo.ne.jp/chno1986jimukyoku/>

当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。

現地メディアによるチェルノブイリ関連ニュース、翻訳の上、随時ブログ・ウェブで更新中